

農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）に関するアンケート調査結果

農村振興課

1 調査目的

県では、農業・農村の持続的な発展に向け、多くの人に「農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）」を理解していただくための取り組みを実施しています。

これについて、県民の皆さまの意識や意向を把握し、今後の施策運営の基礎資料として役立てます。

2 調査対象など

調査対象：県政モニター678人（うちインターネットモニター384人）

調査方法：郵送及びインターネット

調査期間：平成29年1月20日～2月10日

回収結果：545人（回収率：80.4%）

構成比はパーセントで表し、小数点以下を四捨五入して算出しています。

そのため、合計が100%にならない場合があります。

3 結果概要

・農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）の理解度について

農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）について、「知っているものはない」と回答した方は538名のうち46名（8.6%）となっており、知っている働きについては、「生きもののすみかになる働き」が71.7%と高く、次いで、「安らぎをもたらす働き」が58.9%、「洪水を防ぐ働き」が47.0%の順となっている。

また、どのように知ったかについて、「テレビ番組」が62.1%と高く、次いで、「新聞・雑誌」が40.8%、「学校」が33.6%の順となっている。

・農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）の理解のための有効な取り組みについて

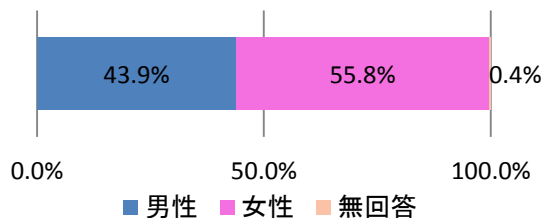
「子供や地域への環境学習」、「メディアでの広報」、「学校の授業」、「農業体験などの農村での体験イベントの推進」の順となっており、「パネル展示」や「パンフレットの配布」よりも学習会や実体験が有効という意見が多くなっている。

・農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）を守っていくための協力について

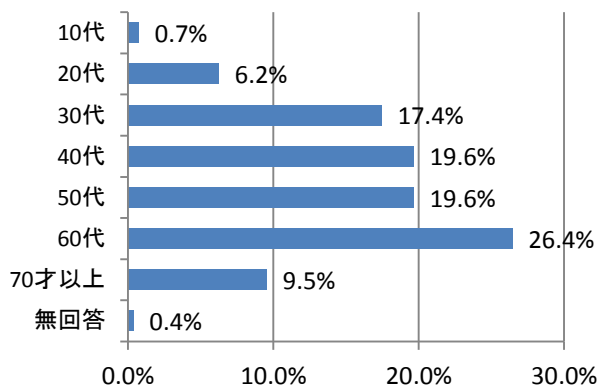
どのような形で協力することができるかについて、「県内産農産物の積極的な購入」が71.4%と高く、次いで、「農村での体験イベントへの参加」が54.1%、「保全活動への参加」が29.3%となっており、農村地域での体験活動や保全活動に一般の方が参加できる体制づくりが必要である。

4 回答者の属性

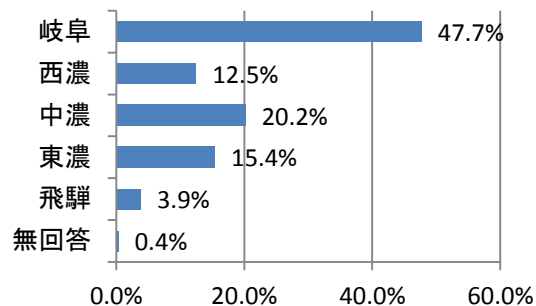
性別	回答数	比率
男性	239	43.9%
女性	304	55.8%
無回答	2	0.4%
計	545	100.0%



年代別	回答数	比率
10代	4	0.7%
20代	34	6.2%
30代	95	17.4%
40代	107	19.6%
50代	107	19.6%
60代	144	26.4%
70才以上	52	9.5%
無回答	2	0.4%
計	545	100.0%



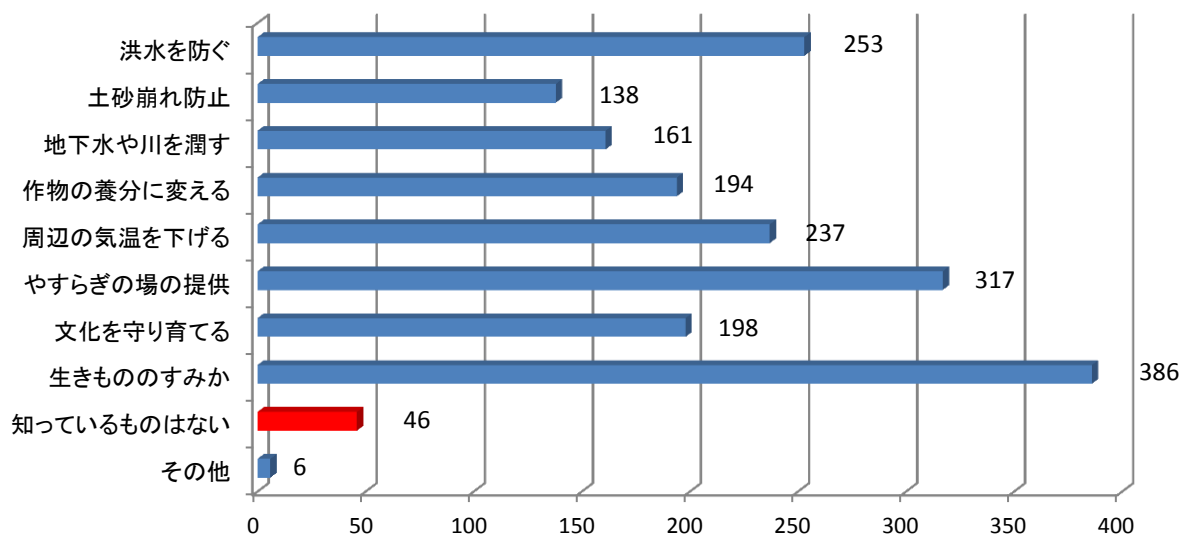
居住圏域別	回答数	比率
岐阜	260	47.7%
西濃	68	12.5%
中濃	110	20.2%
東濃	84	15.4%
飛騨	21	3.9%
無回答	2	0.4%
計	545	100.0%



5 調査結果

問1 農作物を作る働き以外で、農業・農村が持つ働き（多面的機能）について、あなたが知っているものを次の中からすべてあげてください。（複数回答）

回答者=538	回答数	比率
田んぼが雨水を一時的にためることにより、洪水を防ぐ働き	253	47.0%
山間部の田んぼが土砂崩れを防ぐ働き	138	25.7%
田んぼにたまった水が地下水となり下流域を潤す働き	161	29.9%
田んぼや畑の土が生ゴミなどを作物の養分に作り変える働き	194	36.1%
田んぼの水が暑さをやわらげる働き	237	44.1%
美しい農村景観が癒しや安らぎをもたらす働き	317	58.9%
祭りや伝統行事などの農村文化を伝承する働き	198	36.8%
田んぼや水路などが生きもののすみかになる働き	386	71.7%
知っているものはない	46	8.6%
その他	6	1.1%
計	1,936	—

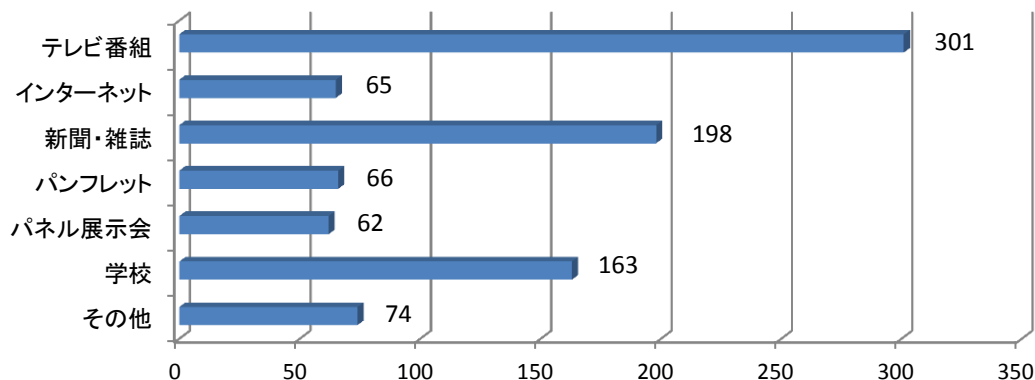


【その他】

- ・ 勤労精神の高揚、太陽など自然の偉大さの認識
- ・ 食との向き合い方に対する教育的景観

問2 問1で答えた働きについて、何で知りましたか。次の中からあてはまるものをすべてあげてください。（複数回答）

回答者=485	回答数	比率
テレビ番組	301	62.1%
インターネット（国や県のホームページなど）	65	13.4%
新聞・雑誌	198	40.8%
パンフレット	66	13.6%
農業祭等におけるパネル展示会	62	12.8%
学校	163	33.6%
その他	74	15.3%
計	929	—

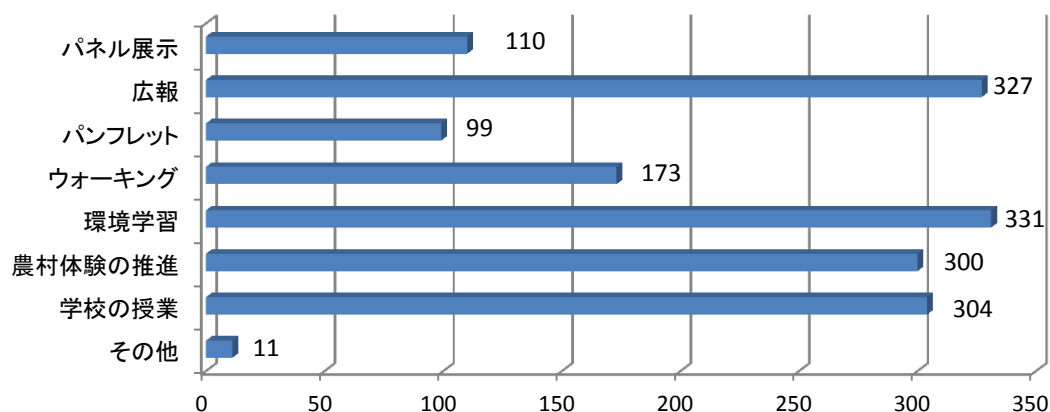


【その他】

- ・昔からの自然の生活の中で得た。
- ・家族から伝え聞いた。実体験から。

問3 農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）を理解するには、どのような取り組みが有効だと思いますか。（複数回答）

回答者=534	回答数	比率
イベントなどでのパネル展示	110	20.6%
メディアでの広報（テレビ・新聞・雑誌 等）	327	61.2%
パンフレットの配布	99	18.5%
農村でウォーキングイベント	173	32.4%
子供や地域住民への環境学習（田んぼや農業用水路 等）	331	62.0%
農業体験など農村での体験イベントの推進	300	56.2%
学校の授業	304	56.9%
その他	11	2.1%
計	1,655	—

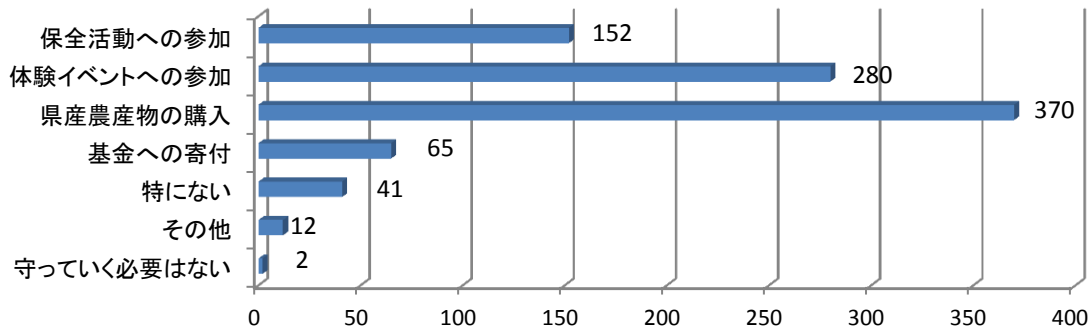


【その他】

- ・情報番組やクイズ番組での取り上げ
- ・老人などから生活の話聞く会を開催

問4 農業・農村のいろいろな働き（多面的機能）を守っていくために、どのような形で協力することが出来ますか。（複数回答）

回答者=518	回答数	比率
保全活動への参加（棚田の保全活動や耕作放棄地の解消活動 等）	152	29.3%
農村での体験イベントへの参加（農業体験、ウォーキング 等）	280	54.1%
県内産農産物の積極的な購入	370	71.4%
基金への寄付	65	12.5%
特に協力できることはない	41	7.9%
その他	12	2.3%
守っていく必要はない	2	0.4%
計	922	—



問5 農業・農村の多面的機能、「ぎふ水土里TV」についての自由意見回答数=129

- ・ 今回のアンケートを通して、農業・農村について学ぶ点が多々あったが、これらの内容を次に伝えていくことは難しいと思う。やはり、岐阜県という県の特徴をふまえて伝えていくことが良いのではないかと考える。小学校の時に授業の中で田植えを行ったが、そこでの学びが非常に大きかったと思う。人が小さい時から、子どもに様々なものを体験させることが必要なのではないかと私は考える。
- ・ 農産物の「地産地消」に積極的に協力することが重要と考える。
- ・ 農業継承者が減少していることが一番の問題であり、もとより少子高齢化により農業の持続は難しい時代になっている。新たな農業のやり方や、農地の活用法、農地法の改正が必要であると思う。
- ・ 都会の人に農村での体験を促すことで、実体験してもらい実感を得てもらうことが効果的だと思う。
- ・ 農地転用が進む中、多面的機能を維持することは困難であると思われる。安易に変更されないゾーニングが必要。ただ命よりもお金が大切な世の中で、いくら多面的価値があったとしても、緑、農地の価値が認められるとは思われない。
- ・ 都市部で生活している者は、農村部の恩恵を受けていることを実感するべきだと思う。農村（川の上流）の持つ機能が上手く作用して、都市（川の下流）へとつながっており、特に災害における農村部の機能をもっと知ってもらいたいと思う。
農村部での高齢化が叫ばれている今日、次世代の育成を早急に進めていかなければならない。それには、次世代を担う子どもたちに「教育」として伝えていく必要がある。

（以下、「ぎふ水土里TV」についての意見）

- ・ 詳しく知らないその土地の歴史や行事の紹介は、子供達にも見せたいと思った。子供達を農業体験に応募して参加させましたが、それを学校で行うことは非常に良いと思った。TV番組で得た知識で、子供達から教えてもらう事も多々ある。子供達が農業・農村のいろいろな働きを学習することで、大人も知識を得られると思った。
- ・ 拝見し、大変良い取り組みだと思った。やはり映像で見ると理解度が深まると思うし、このまま学校で学童たちが見れば、良い教材にもなり、岐阜県への愛着も深まると思う。
- ・ 今後も様々な資源を題材として映像を増やしていただければと思うが、公開されている2つの映像構成が似ているため、増やしていくのであれば少し工夫が必要だと感じた。
- ・ 写真画像が多かったのでビデオ画像が増えるとより見やすいかと思った。
- ・ 県ホームページでの公開とは別に、SNSを活用して公開したほうがよい。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。